

日中の文化比較について考えてみませんか？

公開シンポジウム 「コロナ禍における新しい交流と創造」

ポイント

- 👉 山口県内の文化芸術活動の分野で活躍するキーパーソンが参加
- 👉 本学大学院生による研究成果も発表
- 👉 様々な視点から、日本と中国の文化比較、融合、創造、検証を行う

本学大学院 国際文化学研究科の講義「文化コーディネート論」では、地域のオピニオンリーダー、地域文化のキーパーソンあるいは活性化の推進者などを授業に招き、コーディネーター役の教員とともに文化創造に関する理論と事例などを用いて、グループでの実践的な授業を行っています。

今回は「コロナ禍における新しい交流と創造～日中の文化比較・融合が切り開く地平～」をテーマに、公開シンポジウムを開催します。皆さまお誘い合わせの上、ぜひお越しください。

文化コーディネート論 公開シンポジウム

「コロナ禍における新しい交流と創造～日中の文化比較・融合が切り開く地平～」について

【日時】7月21日（水） 18：30～

※18：00～開場・作品展示を実施

【場所】山口市菜香亭（山口市天花 1-2-7）

【内容】シンポジウム出席者

パネラー：岡部 泰民（合同会社 匠山泊 取締役会長・
山口県繊維加工協同組合 理事長）
坪郷 英彦（山口大学名誉教授）
西田 純子（周防大島町教育委員会国際交流推進員）
「文化コーディネート論」受講生

コーディネーター：水谷 由美子
（本学大学院 国際文化学研究科 教授）

【注意】ご来場の際はマスクの着用をお願いいたします。



2020 年度の様子

お問い合わせ先

〒753-0021 山口市桜島 6 丁目 2-1

国際文化学部 文化創造学科 水谷 由美子（みづたに ゆみこ）

TEL & FAX : 083-929-6258 Email : myumiko@yamaguchi-pu.ac.jp

法人経営部 事業管理・経営企画部門
担当：木村（きむら）【大学広報担当】
TEL : 083-928-3417 FAX : 083-928-3464
Email : ypu-koho2@yamaguchi-pu.ac.jp

2021年度 第3回 山口国際文化学研究会
文化コーディネート論 公開シンポジウム

コロナ禍における 新しい交流と創造

～ 日中の文化比較・融合がぎり開く地平 ～

2021年 **7月21** 日(水)

開場・展示 **18:00** ～

開演 **18:30** ～ **20:00**

会場 **山口市菜香亭**

(山口市天花1-2-7)

入場無料・定員50名

パネラー

岡部 康民 (合同会社 匠山泊 取締役会長・山口県繊維加工協同組合 理事長)

坪郷 英彦 (山口大学名誉教授)

西田 純子 (周防大島町教育委員会国際交流推進員)

文化コーディネート論 受講生 (山口県立大学大学院生)

コーディネーター

水谷 由美子 (山口県立大学大学院国際文化学研究科 教授)

主催 山口県立大学大学院 国際文化学研究科

協力 山口市菜香亭

コロナ禍における新しい交流と創造 ～日中の文化比較・融合がきり開く地平～

文化コーディネーター論では、お招きした講師が紹介する事例（地域産業・文化振興、国際交流による地域文化振興等）の根底に流れている精神や方法などを参考に、学生たちがグループで課題を発見し、小さく課題解決の糸口を作ることを目指しています。

昨年に続きコロナ禍のために来日できない大学院生が多数おり、皆はオンラインによるミーティングを重ねてきました。各グループは中国と日本の学生で構成されており、研究創作活動は日本と中国の文化比較、融合、創造そして検証という方法で行なわれました。

講師の経験に裏打ちされた充実したお話と学生によるプレゼンテーションおよび展示を是非とも楽しみに、皆様お誘い合わせの上、御来場頂きますようお願い申し上げます。

コロナ禍のため会場設営については十分な配慮をいたします。なお、来場者の皆様には入場に際してマスク着用、入り口での検温と消毒をお願い申し上げます。

授業担当者：水谷 由美子（山口県立大学大学院 国際文化学研究所 教授）

シンポジウム プログラム

2021年7月21日（水） 開場・展示 18:00～ / 開演 18:30～
山口市菜香亭

1 日中動物の芝居道中－日本の「歌舞伎」と中国の「京劇」－

賈 岸揚、石 昌豊、宗田 望里、仲 婷婷 / 国際文化学研究所 1年

日本の伝統芸能である「歌舞伎」。中国の伝統芸能である「京劇」。2つに共通しているのが「隈取メイク」です。2つの地域の人に関心を持ってもらうために、親しみやすい動物を使って新たな隈取メイクを考えました。中国の動物は代表的なパンダで、日本の動物は山口市湯田温泉に「白狐伝説」を持つ狐です。この2つの動物に京劇メイクと歌舞伎メイクをそれぞれ施しました。

2 新型コロナ収束への「願（ねがい）」を込めた 県大オリジナル手拭の制作

津村 真衣、傳 篤凱、山本 悟 / 国際文化学研究所 1年

剪紙は、日常の装飾品として窓や扉等に貼る中国の伝統的な切絵細工である。その図案には元来様々な寓意が含まれているが、山口県と友好関係にある山東省に於いては、新型コロナ感染拡大に伴い医療従事者等への感謝や感染予防などを表現する特有のものが創出された。一方、山口県でも同様の趣旨から、各地で千羽鶴の贈呈などが行われた。それらに鑑み、今般は日中共通の「願（ねがい）」である新型コロナ収束をオリジナル手拭で表現した。

3 日中の結婚衣装の歴史を通じての新たな出会い －伝統的結婚衣装の比較研究－

張 珊、松村 伸浩、矢野 雛子 / 国際文化学研究所 1年

国籍を問わない「出会い」の機会を創出する。歴史的に文化交流が深く、国籍別の配偶者数のトップである中国を対象に、中国と日本の結婚式における伝統衣装の違いをテーマに比較研究を行った。伝統的な結婚衣装の理解（＝新しい知識の出会い）を通じて、国際結婚の心理的ハードルを少しでも下げる一助になることを目的とし、中国と日本の特徴をMIXした新しい結婚衣装の提案を行う。

4



にしだ じゅんこ
西田 純子（周防大島町教育委員会国際交流推進員）

1983年山口県生まれ。上智大学外国語学部卒業後、ハワイ大学マノア校にて太平洋諸島研究修士課程修了。日本に帰国後、周防大島や山口市を拠点に日布間の通訳、文化交流活動に従事する。2015年より日本ハワイ移民資料館カルチュラルアドバイザーを務め、2020年より周防大島町教育委員会国際交流推進員として町の国際交流に従事する。

周防大島とハワイのつながり～交流の歴史から見えるもの～

周防大島とハワイとのつながりは1885年に始まる官約移民にさかのぼる。移民の歴史から現代の交流に至るまでの変遷を振り返り、周防大島とハワイのつながりが両者にどのような影響をもたらしたのか、また近年のルーツ探しの増加にも触れ、今後の交流のあり方について発表する。

5



おかべ やすたみ
岡部 泰民（合同会社 匠山泊 取締役会長、山口県繊維加工協同組合 理事長）

1948年(昭和23年)12月14日 山口市 生。大学卒業後ジーンズメーカーに入社、1999年に山口県繊維加工協同組合専務理事に就任、10年間人材育成事業のジャンプファッションデザインコンテストIN山口の実行委員長を務め日本製の再評価活動を世界視野で行う。2005年デニムブランド匠山泊を設立、2011年Re 維新(再維新)を発表、発展的に連携し地域ブランドとして展開中。

地域の「ものづくり」をアパレルから展望する

グローバル化を進めた日本最大アパレルのレナウンがなぜ倒産したのか。ファッションは文化表現、先進国の産業立地基盤は創造の少量生産から。生産性の評価を価値創出で比較すれば、少数の国内生産工房にも活路がある。試練を超えて、存在する地域工房、匠山泊の在り方。

6



つばごう ひでひこ
坪郷 英彦（山口大学名誉教授）

1951年防府市生まれ。九州芸術工科大学卒業、東京教育大学大学院修了。山口県工業技術センターを経て1988年から東京家政学院大学で工芸の文化的研究、1999年から山口大学で日本の技術文化研究、文化人類学を教える。2017年山口大学名誉教授。博士(学術)。山口県工業技術センターで大内塗の国伝統的工芸品産業登録。大学で関東、山口の民俗研究(技術文化)、中国貴州省苗族民族研究を実施。生活文化論(共著)源流社、山口県史民俗編他。

芸術文化から生活文化へ

防府での2つのワークショップ(子どもたちと夢の街の模型作り、デザインの種やきもの巻)。子どもたちのイメージを形にすること、街の文化をデザインすることの大切さの活動、続いて大内塗の伝産法申請概要の紹介をした。さて、世界遺産の文化の多様性重視に沿って日本の文化財保護も文化財の保護から保護・活用へと改正された。文化研究の立場から山口市の文化財保護活動整備を中心に芸術文化から生活文化の保存・活用の提案をする。

アクセスマップ



山口市菜香亭
〒753-0091 山口市天花1-2-7 TEL: 083-934-3312
*ご来場の際はマスクの着用をお願いいたします。

【お問い合わせ】山口県立大学 〒753-8502 山口市桜島6-2-1
国際文化学部事務室(担当:水谷)
TEL: 083-929-6258
Email: myumiko@yamaguchi-au.jp